



猿江公園の林に生えるテングタケの仲間（ウスキテングタケ？）
梅雨になって雨の日が増えると、そこら中にキノコが生え始めた。



テングタケの仲間（テングタケダマシ？）の成長の様子 最初は球形だが、柄が伸びるにつれて傘も開いていく。傘の裏のヒダ状の部分から胞子を飛ばす。

径がなんと20cm以上もある、巨大なキノコが生えていたのだ！肉厚で柄も太く、匂いも強い。調べると、このキノコはおそらくイグチ科のヤマドリタケモドキのようだ。図鑑には「ポルチーニ茸」とはこれのこと」と書いてあって驚いた。イタリア料理のポルチーニってこんなキノコだったのかー！（キノコの同定は全く自信が無いので、くれぐれもこれを見て食べてみようなどと思わないように！）

キノコは菌類（英語でfungus/複数形fungi）の仲間であり、生活の仕方から、「腐生菌（落ち葉などから生える。アミガサタケなど。）」や「木材腐朽菌（倒木から生える。シイタケなど。）」、「菌根菌（根から生える。マツタケなど。）」に分けられる。ここで写真を載せたキノコは**全て菌根菌である**。キンコンキン…一度は口に出して言ってみたい愉快的な語感のネーミングだ。菌根菌は地中で木の根とつながって“菌根”を作り、木から有機物をもらって生きている。一方で、キノコが土から集めた「窒素」や「リン」などは、根を通じて植物に供給されるので、菌根菌と植物は**相利共生**の関係にあると言える。植物とキノコは切っても切れない仲間である。我々の見えないところで、実はひっそりとキノコが森林を支えているのだ。



木を中心に円を描くように生えるテングタケの仲間
テングタケなどの“菌根菌”は木の根から生えるキノコだ。木を囲うように放射状に生えたキノコは地中で根とつながっている。



巨大キノコ・ヤマドリタケモドキ
傘の直径が20cm以上ある巨大なキノコ。強い匂いを放っていた。パスタなどで有名な「ポルチーニ」はこのキノコのことだ。イグチ科のキノコは傘の裏がヒダ状ではなくスポンジのようになっていて面白い。



昆虫たちが集まるキノコ キノコの中には多数の虫が集まっているものもある。虫は胞子を運んでくれるので、キノコにとっては大事な存在だ。

- ①テングタケダマシに乗るヒメホシカメムシ。匂いに誘われたのか、たまたま乗っただけなのかは不明。（白矢印）
- ②テングタケダマシの柄や傘の裏には多数の小さなハネカクシの仲間が集まっていた。（白矢印）
- ③イグチの仲間（アシベニイグチ？）には匂いにつられてたくさんのキノコバエが集まっていた。（白矢印）